

防災のための植樹

～いのちを守り、いのちを学ぶ「ふるさとの森づくり」～



学校への植樹

戦後、防犯上見通しを良くするため、学校のまわりの木を伐採し、コンクリート壁で囲んだ



神社（鎮守の森）への植樹

首都圏の鎮守の森は戦後の統廃合、道路拡張などの要因のために、関東では30年間で1/3も減少した

学校林や鎮守の森は、阪神大震災の火の延焼を食い止めた

土地本来の木 = 防災林としての役目

どんぐりから育てる、「いのち」の教育

4000年共生してきた、日本人の心のふるさと再生

地域住民が、植樹の意味を理解して、次世代の子どもを守るため、本物の森を街中につくる



※写真提供：毎日新聞社

住民の手で植樹し、森をつくる。

